

<0.01) に増加したが、60週目では再び $0.3 \pm 0.19$  と減少した。血中アドレナリン、アルドステロンについては有意の変化は認めなかった。

### 32. 高血圧と運動負荷

山本和利, 岩田次郎, 山田憲司郎, 蒔田国伸,  
宇高義夫, 鳩貝 文彦, 水野 毅, 杉山吉克,  
斎藤 俊弘, 稲垣義明 (千大)

最近、境界型高血圧 (BH) については多くの報告があるが、その予後および治療の必要性については未だ一定の見解がえられていない。一方、われわれのデータによると BH で10年後に固定型 (EH) に移行したものは、若年群で13%, 中壮年群で50%であり、BH が常に EH に移行するとは限らない。従って、BH のうち、どのようなタイプが EH に移行するかを識別することは臨床および予防医学的見地から極めて重要である。そこで、今回、若年および中壮年の BH の男子80名を対象とし、運動負荷試験を行ない、収縮期血圧の昇圧反応性から2群に分類し、それぞれの背景因子、薬物に対する反応性および臨床経過につき、retrospective に検討した。運動は定量負荷型臥位自転車 ergometer を用い、1.25W/kg, 6分間の単一負荷試験を行なった。

その結果、運動時の最大収縮期血圧が若年群で210 mm-Hg, 中壮年群で190mmHg, 以上になったものの大部分は、ある時点より、外来時血圧が上昇し、降圧療法が必要であった。以上より BH の降圧療法の適応決定に運動負荷試験に対する昇圧反応性も有用であることが示唆された。

### 33. 胃癌切除例の長期追跡調査からみた治癒判定 (特に早期胃癌について)

高杉敏彦 (千大)

#### A. 対象及び方法

1962年国立がんセンター開院以来、1976年12月31日までに治癒切除された原発性胃癌2114例 (うち早期胃癌732例) について、Life Table Method によって生存率の算出を行い、その予後に対する検討を行った。

#### B. 結論

①胃癌の再発死が術後10年以降にほとんど認められなかった事から、その治癒判定には術後10年が1つの指標になると考えられる。②深達度 sm の早期胃癌の5生率は95.3%10生率は93.1%であった。また深達度 m ではほとんど再発の危険はないと考えてよい。③早期胃癌の予後にとって、リンパ節転移の有無、また陥凹型早期胃癌では合併する潰瘍の深さは重要な要素であった。④低分

化型腺癌は分化型腺癌に比べて比較的遅い時期に再発する傾向が見られた。

### 34. うっ血性心不全を伴ったクッシング病の一症例

今井 均, 中村真人, 今関安雄, 檜垣 進,  
中村 仁 (八日市場国保)  
西山裕孝 (千大・脳外科)

症例は、35歳男性。S50年頃より高血圧症指摘された。S54. 12 労作性呼吸困難、下肢浮腫で当院入院。うっ血性心筋症を疑わせる心不全、糖尿病と高血圧症と診断され、投薬にて症状軽快し、外来通院していた。S57. 4. 糖尿病悪化し入院。満月様顔貌、中心性肥満等特異的身体所見やホルモン検査より、クッシング病と診断され、千葉大脳外科にて、下垂体腫瘍摘出術実施する。病理診断は良性混合性腫瘍であった。術後、Withdrawal 症候群を呈し、コーチゾールの投与を受けている。高血圧は無投薬でほぼ正常血圧を保ち、糖尿病は治癒している。

### 35. 八日市場市における総合検診

中村 仁 (八日市場国保)

従来の行政主導的検診方法を改め、各種検診を総括した総合検診を57年度より発足させた。対象は八日市場市在住者中15歳以上で、学生および事業所検診を行っている者を除いた16,466名である。実施に先立ち、医師およびコメディカルなる専門委員会と健康づくり推進協議会の答申に基づき、運営委員会ですべての決定を行なう。市は広報、連絡、データー集積、分析、通知を担当する。総合検診はあらかじめ設定されたフローシートにより行なわれた。検診率は58%で、従来のどの検診にくらべても有意に高かった。検診目的は危険因子と疾病の発見にとどまらず、疫学的調査、新しい危険因子の発見将来予測を十分に満たされるよう設定した。今後各検査の基準値の是正、検診方法、項目の検討、広報活動の工夫、異常者の追跡法の検討、健康教育の方法、データー集積と分析法の開発を更に進めて行く積りである。

### 36. 血液集検における HDL-cholesterol 異常者についての検討 (第二報)

加賀谷秋彦, 菅谷 仁, 茂又真裕 (塩谷病院)

地域住民対象の血液集検における HDL 異常者について検討を行った。対象例は昭和56年4月より昭和57年3月までに集検をうけた地域住民2365名 (男子545名, 女子1820名) である。集検で用いた検査項目は Hb Ht RBC GOT GPT  $\gamma$ -GTP TP BS 尿酸 T. chol HDL-

cholesterol である。総受診者中一項目以上の異常を示した者は668名(28.2%)であり、HDL-chol. 低値の異常者(男子30mg/dl 以下, 女子35mg/dl 以下)は282名(11.9%)であった。HDL-chol. 低値のみの異常者は219名(9.7%)と高い。一方 T-chol. の異常者(高値

例240mg/dl 以上, 低値例130mg/dl 以下)は199名(高値176名, 低値23名)であったが T-chol., HDL-chol. の両者の異常を示すものは25名のみであった。HDL 低値例の精検の成績についても検討を加えたので報告する。

## 次 号 予 告

<60 卷 4 号 昭和 59 年 8 月>

### 総 説

丸山直記：マウス自己免疫病の遺伝的背景

### 連 載 講 座

降矢 震：臨床検査総論 (IV)

### 原 著

渡辺 寛：開心術中の心筋保護法の検討—Young 氏心停止液の有効性について—

内藤正文, 森川真一, 関谷宗英, 高見沢裕吉：子宮内膜癌発生に関する実験的研究—アンドロゲン不妊ラットの内分泌環境と子宮内膜癌の病理発生について—

松山泰久, 小俣政男, 横須賀収, 伊藤よしみ, 内海勝夫, 森 順子, 今関文夫, 田中晶子, 広田勝太郎, 田川まさみ, 奥田邦雄：千葉大学医学部附属病院における過去7年間の B 型肝炎 ウイルス 汚染事故と, B 型肝炎ワクチン投与による能動免疫の成績

### ら い ぶ ら り

長尾孝一：Soft Tissue Ossification.

### 学 会

第4回千葉県胆膵研究会

第686回千葉医学会例会, 第4回歯科口腔外科例会